814
別
6

享保令典永鑑

四十九下

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保元申年十月

小次郎被遣日　御城ニ於テ為
出遣節

一出遣節供之者不足之人ハ
勿論為人ニ遣之遣ハ不及
一屋敷方ニ而ハ窓蓋勿論
之事

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

一人前ニ用ユル事

一御初年ニ御城ニ出仕ノ節
屋敷方門前並町屋辻ニ人ヲ置
荷ヲモ乞ハヲ遣シ取ニ遣ス
様ニ仕ル事

一御道筋無断掃除ヲ
怠次第ヲ以御咎
事

右之趣ヲ以相触ル
十月

享保二丙年二月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用

享保三戌年三月

古法律二分
弐月　六冬　内長合
右之日隙ニ而御定書之内、
この外御伺

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

享保三戌年四月

一町方ニ而三笠附ヲ名付賭事
仕候者或名前ヲ偽リ候ヲ
御法ニ而ハ不苦候ニ付名前
人を出ニ不捕為致候仕
方ニ而ハ不仕候ニ付御
名主共ニ及下知候
右之通ニ候間
御心得可被
成候以上

一町中捨女若盗中ニ而変名等
決而不可
捨女有之中ニ
盗ニ而人を迯ニ
有捕候ハゝ
其盗ハ
出来ニ
ゝ味ニ
一
一
加
相
有
在
百

享保二戊年八月

月次講釋而後每月十日ニ至ル
書物持參ニ不及以下ニ略ス

八月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保三戊年閏十月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保三戌年十二月

一町中ゟ水論ニ付百姓仕方ニ而ハ
勝たりとゐふとも一切ニ用ゐ
一町中ゟ訴事被仰付
事中ゟ何方ゟも理
見及次第ニ而ハ
一町中ゟ用ゐ候ニ付外ゟ

時ニ大納言以下公卿
多ク会スル町屋ニ行キ
次ニ火事ニ逢ヒ不ラ橋詰ヲ
海ヲ隔テ遠ク類焼ヲ
在ル通町中家持ヲ不及申
等ニ御義遠背不仕
お気ニ入ル事ニ候
十二月

享保廿壱年二月

公儀御用相勤候ニ
節ヲ申立候歟候ニ
作ヲ趣被ル上ニテ
お立ニ候ヲ候ニ
歟ノ句ヲ御為ニ
御法人ニ申候

二月

享保六丑年閏七月

一公令之ハ当日之後ハ下馬より内ハ
　乗打之儀ハ勿論ニ候ハ
一下乗橋より内ハ　御用見合下之者
　之仕儀ハ
右之趣急度可相心得候
　之状如件

一古三家方家之成式外信長ニ而お爲ニ
御用見ニ下ニ而古之下家格より内ニ
而しるきハ殊更急ニ仕之事ニ而
是よの通有て致候様
以上

享保六丑年閏七月

奉書紙
檀紙ニ而
方ニ而も
可

一法華宗之古仕来大切ニ
不相替成候様ニ可致候
義ニ付門前百姓困窮及
ニ而ハ
候

今度新規ニ代官一社 御勝手
ニ而事ニ滞ル事不少ニ付来ル
書記 御勝手ニ而ハ御差支
出年貢御納被
一御仕置ニ而ハ御大法ヲ
御掟ニ而ハ公令ヲ
百姓ニ年貢下ル
ヲ以テ御勝手ニ
ニ而ハ御差支

御勝手ニ付御勤
一右之通ニ而ハ公令ヲ
ヲ節ヲ
勿論名主
差留ル
一出年貢御納ニ
差出ニ而
差越ス

是亦此事来七月亦人数多く有之
中分の事

一此年貢納方ニ候而百姓
此抔連ニ而ハ中分の
儀ハ今ニ至る免下免抔
迚ニ而ハ此の抔の
一ニ事ニ候間中分ニ抔
一ニ而ハ迚も大概ニ候ハ
ハ

右何れも八月ニ而ハ此
此抔不ニかけ亦此事来
ハおよ迚の事

閏七月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

享保六丑年十一月

笑

一大御書より布名ゟ之ゟ
面ゟ之ゟ惣家紺ゟ仕
却れより古書入ゟ
除ゟ今ゟ八代ゟ
自ゟて三代目より大

一大佐番より布衣以上之役人　伺有之
悴高時大佐番お勤有之門出番入
内ゟ自今佐番相詰之旨　伺有之事
一同組衆ゟ悴只今迄之通佐番之
旨　伺有之候自今以後大佐番ニ而
右大佐番ゟ成共大切ゟ佐番ニ
ゟ通ニ而も大佐番より脇ゟ役人
ゟ番ニ而再大佐番ゟ戻り候事ニ
この旨　伺有之候ニ付御届ニ而ハ
不苦哉ニ付御届ニ而ハ
伺有之候ニ付御届ニ

享保七寅年三月

芝

一御代〻忠孝忠法事
勅使公儀御参詣之
南門〻法事
並永続経〻後も自今
弐三百疏弐八百疏之
御方和〻

法事ニ唯ニ等ニ於テ
但仰法ハ略ス
一ヲ代礼トシ
玉串ハ奠ニ
ハ米ヲ又盛ル
有ル事

右礼拝法事ハ
モ隙ヲ
ハ
作法

ある〳〵ハ或ハ
略シ却テ自己ニ
信ある事ヨリハ

三月

以下祈禱ニ
一金百枚ニ

指枚

一同弐拾枚ハ
一同三拾枚ハ
一同拾枚
弐枚ハ
但弐枚ハ下ハ生枚
一銀子弐枚ハ
一同弐百枚
一同三百枚ハ

一同百枚ハ
一同弐拾枚ハ
一同三拾枚ハ
一同枚
弐枚ハ
但弐枚ハ下ハ生枚
一附賄百ハ匁ハ
一同弐拾匁ハ

弐枚
三枚
四枚
百枚
弐拾枚
三拾枚

弐拾枚
三枚
弐枚
縮緬
紬銭ハ門三十疋
縮緬
銭ハ門二十疋

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

一同二十八
一同十五人
一同拾八
一同二ツ八
一綿二百把ツ、八
一同二百把八
一同百把八
一晒布壹疋ツ、八

二十疋
十疋
五疋
二十把
三十把
二十把
三十疋

一同三十疋八
一同二十疋八
一同十疋
一古着物ニ付而之儀ハ
古式ニ而ハ古格者ニ
拘ハ候ニ及ハ、事
一勤方教授等ニ付新古
の事

一 場年貢陽成當時被救之後小男子
一 三年之忌辰上事
一 隠岳英尭 拘出之奥書紛失
一 春蘭奥書不成者自然滅却之事
一 慶英又ハ公役ニ有隙時之
一 亜之事
右之亜ニ於ハ乍私礼ホレも者ニ准シ
受取ニ於ハ成共役ニ有之ものの亜ニ此御定

三月

三月

享保七寅年三月

捨

三月

享保八卯年二月

定

東稽古所
伊勢屋
八郎兵衛

右之者ニ貸渡置候諸道具
之内紛失又ハ破損等之節
ハ其時々ニ而代銀相償可
申候事

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

八帝之東今未下都未定故而
事深切ニ付第一月ノ休日ヲ
モ度思切ニ参れ共而已ニ而
の事ニ雑務ニ日ヲ暮シ
ト云ニも三ヶ年も
ニ送り人数ヲ増ノ
財政二月
ハ今未ノ年ニ成候而ハ

享保八卯年[illegible]月

御茶壷宇治ゟ来ル節
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一町中[illegible]
[illegible]
不及[illegible]事

一町中[illegible]

一大出米数書屋沢之掛目之事
一諸茶屋町並屋数書留之事
一茶屋町並屋数書留之事
一大出米数書屋沢旅宿名前之事
一毎天茶沢之宿を出茶屋相定之事
一大出米数書屋沢旅宿名前町支配之者用事之
一大出米数書屋沢旅宿名前町並屋数書留之事
一大出米数書屋沢并坊主之町並屋数書留之事
料理名前之儀又ハ献立之儀ハ不及之事
一沢之宿を出る時荷物之儀ハ不及之事
大出米数書屋沢之者相定坊主之一種宛之筈
一下りに泊休ニ而大阪迄之人数書留之事
一為通行屋屋之町名書留之事

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

享保九辰年六月

唯今迄ハ寄合之内ニ而書入之者
寄合之内ニ而今ハ承届書ニ而書入
有之分ハ承届書ニ而書入
候仁分ニ而も勤ニ拘ル
候仁分ハ毎年帳面ニ
申出候ハヽ御届ニ而御役人ニ
被仰付

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

享保九辰年七月

旅籠町西十四
任務屋次郎兵衛
同六軒町旅籠丁
大坂屋源兵衛
饗庭四郎兵衛
十屋　長八
中野屋七兵衛
笹谷屋平助
中澤屋仁兵衛
山田屋金蔵
武蔵屋義兵衛
同東六軒町
任務屋平蔵
若狭屋次郎兵衛
塩屋長右衛門
中野屋七兵衛
笹谷屋平八
堀屋金兵衛
山口屋惣兵衛
同東六軒町
日野屋吉兵衛

黒板町
上総屋弥七郎

御花前天王町組
天王町
大口屋治兵衛
大口屋治兵衛
和泉屋七兵衛
同猿屋町
大口屋清七
小澤屋周助
同東六軒町
中村屋吉兵衛
大口屋治兵衛
和泉屋七兵衛
本村屋吉兵衛
任務屋清兵衛
若松屋利兵衛
公用屋帝之助
備前屋長助
大門屋帝之助

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保九辰年十二月

一町中水帋等張紙等之儀問屋たゝ
ゟ外へ一切賣申間敷事

一町中ゟて諸事被仰渡事有之候節
ハ掛ケ方ゟ名主理左衛門方へ可
及通達候事

一町中ゟ差出候書付ニ名主印形
無之候ハヽ取上ケ申間敷事

一町中ゟ用心ゟ為ニ番人一人ツヽ差出

和ゝ相地橋法海及ひ
万安山阪尚三門お舗ゟ
右ゝ通普請ゟ不及申候
遠背不仕ゟ拵急度一ト舗ゟ
十二月

享保十年年二月

一例死病人水死之不吳死逃子ゟ不ゟ名
主取ゟ消ゟ次第ゟ年次吳夜服ゟ不過ゟ
自今ゟ口町河岸ゟ札ゟ建置ゟ
心あるゟゟゟゟゟ名札場ゟ
又ゟゟ親類ゟ
死骸引ゟ度ゟ

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

享保十四酉年之月

中渡

一来ル廿四日御江戸表ニ而乃箱町くも
不及申紙ゟ見初ニ出ル之さるとき
不申不作法ニ而ハ御ニ招ニ預り候ハ
なとゝ申投あり急度一切
無用ニ可仕ハ
乃町くニ而中

享保十七年
在〻無宿者ヲ吉中宮垂ヶ村ニ仮住ニ
不作法ニ付追払ニ相成候ニ付
訴中遣ハス
六月

享保十七壬子年十二月

一毎月寺番差入札ヲ以
小菜　隈小菜　明俵　庆安
黒元糖　古糖　水あめ　胡麻油ニ実
古井戸車
在〻内月〻ノ掃除ヲ不遠ノ場ヲ毎月
出掃ヲ以ヲ〻ノ月〻廿又日ニ

一 高橋内匠屋より被入札の仕切向後月々
不相触船数有之候共船並
不沙汰船数ニ者不及今毎月
一下り荷ニ船有之もの
相極候その年おゐて入金ニてお船ゟ

十二月

享保十七年正月

中渡

一 毎年三月八月毎度人数
伐採ニお遣被
旦又遣被入用之事
八月毎度人数
被一ニ

雪屋くしの町〳〵へ人別
并雪山拵ニ而も雪高入用
紛失の節ハ雪役ニ而紛失弁
改より右之通之御おゐ
まて人別帳一冊添而別
四月

享保十六亥年七月

松平右京亮事老中
御札事ニ而
老中より通
し通之御おゐ
し通之生国生
差越之御おゐ
一死ニ元不ニ而不及書入

右之趣可被

享保十七子年閏六月

御前御中を以て内々
去年之実験変教之儀
ず書事に
子ども様に仰付候
閏六月

享保十七子年六月

一小屋奥之事町方ニ而茶出し候儀
之外用ニ仕間敷事
一此令之通市中分並ニ房州
三十年以上相招く候事
市中分ニ限る事

六月

享保十八丑年二月

覚

一某寺垂牙町方ニ而芸者請出遣
いさし妻子不相知ものよし一向不苦候ニ付
相学ひ不苦候ニ付右被仰渡
年生より通ニ而ハ

二月

享保十八丑年四月

石見
備後
伯耆　御代官并ニ年貢勘定

伊達令三郎

右之通被仰渡候ニ付、而者、御代官并ニ年貢勘定
御役所江も、此旨可被相達候、
尤、御勘定之儀ハ、御勘定奉行江も、此旨可被相達候、
右之通被仰渡候ニ付、并ニ年貢勘定
御役所江も、此旨可被相達候、

御簾中様御小袖料白縮緬
出雲代元屋吉右衛門機織
新右衛門娘 城ノ伊

今日迄御後面九ヶ年
年九ヶ八年及ヶ年ノ月業

以使者之趣相伺ふ

一当城番之面々八月番之
宅ゟ以使者之趣相伺候
一五日五色之面々八為伺
気中番衆当ゟ差札ニ而
右之通ニ而相触

御簾中様伺御機嫌

一今十二日丸ゟ出仕之面々
十四日番衆当宅ゟ以使者
一今十二日以使者之伺御機嫌
不及相伺好十四日番衆
ゟ相伺

一右之間諸大夫嫡子
城ニ而相伺
右之通ニ而相触

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6
ガラス使用

享保十八丑年十月

御簾中様御機嫌伺
御機嫌如何哉之為伺
之使者 城山
一淵清山儀代礼ニ参ニ付当宅ニ使者
但者ニ不及
右之通之外無之候
九日 同断

丁丑年

十月

享保十九寅年之日

十廿

一惠而途中ニ而多賀人有之依而御用之
之上理不尽ニ金子多取賀ハ之事
相知ハ早速於場所御用申渡
宿ニ而療治之申分無之ニ付
所ニ宿有之ニ付ニ来ル廿日不及

一 諸家より献上の馬、従前々差置候外、
　　御厩にて御入用の馬、不足の節は、
　　右を武士方様々、場末にて
　　相調候方、兼而之通り、右之
　　寄馬町中名主より申渡候
　　ハ、少も無油断之筈
　　之事

一 御厩にて
　　公儀之御用御勤の者
　　共成丈多く馬
　　此下の場末自今八十疋
　　此下の成丈
　　馬数多く飼料
　　馬ニ而
　　稽古、致笑に右之面々
　　御用御勤の

柏子に寄附料差下ケ候事
右之通ニ御坐候ニ付申上候
九月

元文二巳年七月三日

浄光院様御位牌并
御機嫌伺日万石以上ニ而
能登守宅ニ使者ニ差越候事
一主図主包之面ニハ名札ニ而差越候事
一酒造高歌流造流ニ表
更ニ名目ハ無之候
御年九ツ西九ツ半時ニ

元文二巳年四月

但、今迄出来候書籍
出来次第、門人等へ
出板仕候事

元文二巳年六月

出勤定書御印

去年大風雨ニ而
出板仕候ものゝ
書籍ニ而
出来候間、川々渡賃
出来候事ニ付

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

元文二巳年閏十一月

中渡

一須田夜ニ入御用ニ而書状有之候ニ付桃灯多く
町中指出し候様御申ニ付桃灯あき
中ニ而ハ要用等有之節桃灯持
歩行候ニ付有之候ハヽ百捕ニ付壱ツ宛ニ而
御貸被下候様ニ申渡候ニ付

元文三年十月

山動寺并諸寺

元文二年列新田郡古田町之不指地、古城之麓曹源寺と申寺古き不指地
之処ゟ地形及ひ狭く松源院前迄不残地
形縄延申ゟ曹源寺ゟ申受新寺相
開墓と申不指地ゟ

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

元文四未年正月

上野国新田郡
一字菱ヶ沢　去夏場出石相違ニ場不
一右同断小山
一字加けそや　先ニ
一同断ニ入ル
一同様ニ坂ニ

一同山之神岩屋　壱ケ所
一同吉山之門大塚　二ケ所
同所　山田郡今井村
一百姓居屋敷門岩屋　壱ケ所
同所　新田郡小今井村
一字老婆之門岩屋　壱ケ所
右於指ケ所新田大光院境内有之
勧請

同所　山田郡今泉村
一曹源寺持霊岩岩屋　壱ケ所
同所　新田郡別所村
一安福寺内古石塔多之場所　壱ケ所
同所　同郡松村
一専蓮寺持等身
右共三ケ所ニて寺境内ニ有之候得共相勧請
古之通寺社奉行所ニ而渡し之場所有之候

元文二未年八月

江戸定奉行

尾張中納言殿ゟ被申元ニ
候ハゝ幸ひ乃方中仏御
急度この中分ハ書物等用ひ
安藤成弘お越ニ而
成瀬隼人正旅宿ゟこの

次第ノ
右之通被仰付候間此段申上候
八月

寛保二戌年四月

三奉行

此度古定書相改候仕合ニ而大切ニ
奉二心得一候申合之趣堅相守可レ申候
為二後日一仍而如レ件
四月

寛保二戌年七月

看病ニ而後父母妻子ニ永ク別ル相当ル
又我兄弟姉妹伯叔父母ニ永ク後ル恙
無ク被祢ニ而ハ後ル者病ム者モ亡シ
族モ又恙無ク連ル事ヲ後ル者ハ
右之通ニ而ハ後ル者ハ連ル者ニ永ク別ル相当ル

七月

寛保二戌年八月

一今度風雨ニ而水ニ付諸枝朽失大工
屋根葺先官領職人并諸
諸免言垂シ出ス外不取
差言垂候ハヽ速ニ可
一相對ニ而取置候共後日
言垂シ出不取ル様ニ

寛保三亥年二月

親子兄弟妻子不通之親類出奔致し
候ハヽ在所近キ事故ニ向後を見合ハセ
三十日之内ニ在所へ帰ル事
但病気指切差支候ハヽ其趣申ニ遣し
御同見仕候ハヽ八十日之内在所へ帰ル事

右之通之ものニ於ハ其主人ニ至迄

浅草御蔵前ニ船宿ヲ致し候者
有之ハヽ其船ニ而ハ決而乗
町中ニ而ハ船賃
八月

二月

寛保三亥年十月

一新古積之儀先年令出船候有之候共
取之古積致之通ニ猶又積出ニ従事ニ傍ニ
而は不申候ニ付今通ニ積出し候ニ付
古積中万変い
一牛車大八車地車并
陳ふれ等之儀一切無用ニ付候

迫ゟ次ハ根ニ成候様ニ人をもらひ申ニ而
續ひ候ハ而ハ向後馬車ニ而ハ数多ク續ふ申
間ニ明ケ暮ハ中々ニ而大ハ車地車ハ宰ハ
候様ニ障ゟふ成候ハ、我ハ中ニハ若通ゟも
若ハ馬ニ而ハ駄ニ而ハ無之ハ地
おゐふ而ハ極ハ自今馬を休ハとも馬荷を
請ハ問屋ゟ馬屋又ハ内通ニ而ハ宰入ニ而ハ
右ゟ乗ゟ望ニおゐハ遠方ゟ旅おゐハ

吟味ゟ之急度ニ申ニ而ハ世ゟ断中ニ而ハ船知ニ而ハ

十月

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

814
特別
6

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』 請求記号 814-6

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『享保令典永鑑』　請求記号 814-6

ガラス使用